

# 山行報告書

報告書作成

2005年11月15日

山名 [山域]	別山チブリ尾根(白山)	目的と方法	黄葉のチブリ尾根を辿り新雪の白山を展望する
登山期間	11月5日(土)～11月6日(日)	山行形態	山頂往復(テント携行避難小屋泊)
参加人数	2名		

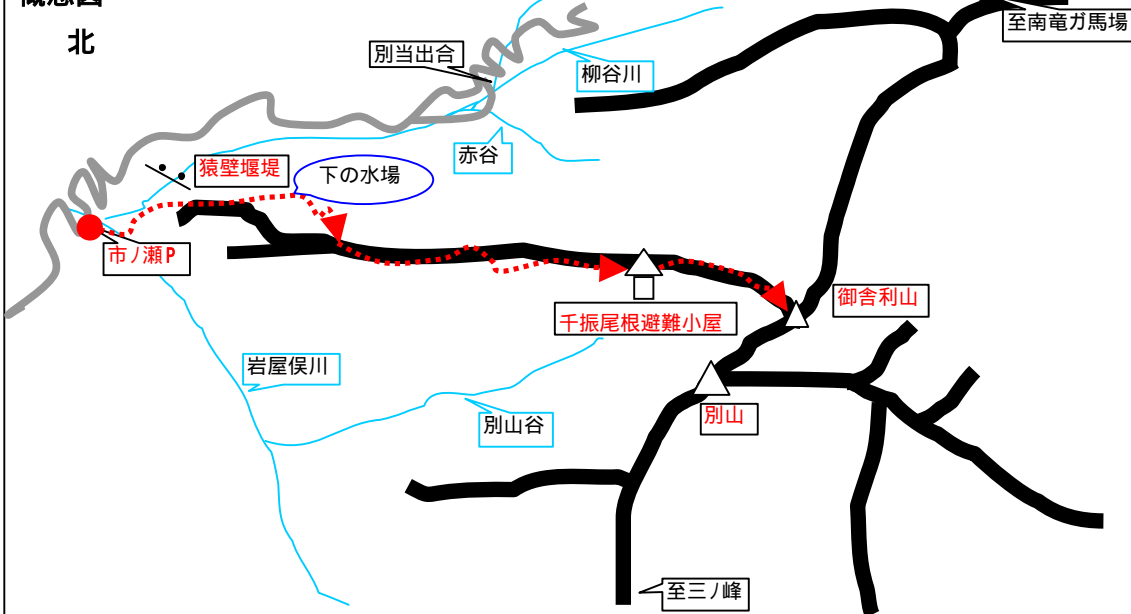
## 行動記録

**11/5(土)** 旧岡崎市民病院跡PKG(520,525)==0:05==岡崎IC(530)==1:05==長良川SA(635,650)==0:05==美濃IC(655)==0:30==白鳥IC(725)==0:35==道の駅「九頭竜」(800,805)==0:40==勝山FM(845,855)==0:55==市ノ瀬(950,1025)--0:35--猿壁堰堤「905m」(1100)--0:35--下の水場(1135,1150)--0:25--上の水場(1215,1225)--0:40--釈迦岳展望台(1305,1350)--0:25--尾根の水場(1415,1430)--0:55--千振尾根避難小屋「1895m」(1525)

**11/6(日)** 起床(400) 10 @小屋内

千振尾根避難小屋(550)--0:55--水場「2170m」上部(645,655)--0:25--御舍利山(720,730)--1:05--千振尾根避難小屋(835,920)--0:32--尾根の水場(952)--0:20--釈迦岳展望台(1012)--0:35--上の水場(1047)--0:13--下の水場(1100,1110)--0:30--猿壁堰堤(1140)--0:25--市ノ瀬(1205,1225)==天望の湯(1245,1355)==0:45==福そば(1440,1515)==1:05==白鳥IC(1620)==2:20==岡崎IC(1840)==0:05==旧岡崎市民病院跡PKG(1845)

## 概念図



## 日誌

**11/5(土)** 共同装備を確認後Hさんの通いなれた道で岡崎IC、長良川SA、白鳥IC、158、157号經由市ノ瀬へ向かう。久しぶり週末の良い天気で大い駐車場には2～30台がすでに駐車されていた。隣接の市ノ瀬ビターセンター管理人さんに最新山情報を教えていただく。今シーズンは本日で終了らしく常連のHさんと会話も弾んでいる様子。朝食後10:25出発。猿壁堰堤までは林道歩きとなるが砂防工事の大型車が頻繁に入るので注意するも、金沢のTさんと偶然の再会に喜び林道脇の道標を見落とすMでした。(本には堆積岩の地盤に造山活動と火山活動がともなったことにより崩壊しやすい構造になっているらしく、砂防工事もいたるところで行われており、この地球が存在する限り工事も継続されようと記されていた。)登山道に入るといきなりミズナ、カツラなど混ざり合いチナなどの巨木も多くみられ黄葉の最盛期の様です。下の水場で共同水を確認し、ザックも重くなるが樹齢数百年のブナもある原生林の中を気分よくゆっくり歩く。Hさんは残雪期のルート検証や写真撮影にも余念が無い。色々教えてくださり有難い。次第に落葉したブナ、ダケカンバも多くなり、釈迦岳、大汝、白い白山(10/23初冠雪)の展望と白山登山の基点となる別当出合も一望できる所で温かい麺の昼食をとる。時折下山者とすれ違いながら歩くとHさんがツレツレ4mの所につけられた赤布に気づく。テープは高所に少しあるが夏道目線にさほどない。見晴らしのよい笹原から別山、御舍利山が立ちはだかる。小屋は深緑のオオシロツリに囲まれまったく見えないが手前に道標もあり、池のある凍てつく木道を過ぎると改修されたばかりのチブリ尾根避難小屋15:25着となる。重厚な作りで15人収容できる広さと3ヶ所の小窓から白山、別山、加越国境の山々が望めた。内装はあすなろが使われ明るく綺麗で檜と同じよい香りがした。トイレが1つあるが、水場はない。先人4名のザックがある。心配する頃、別山から戻ってきて稜線下が凍っていたと聞く。(せっかく来たのだから山頂を踏みたい。)黄昏る白山を眺められるVIP席でビールと美味しいおでんをいただく。外は満天の星空。天の川に消える流れ星と追う流れ星。(こんなに速くちゃ願いは届かない)19:30全員就寝。

**11/6(日)** 4時起床。小屋10 と暖かい朝である。4名は市ノ瀬へと先に下山する。当方はHさん特製ヌクヌクを持って5:50軽装備で出発。南風が強まる中をライトをつけて歩く。白山と稜線は、はっきり見えるものの低い雲の動きが気になる。2150m、3 辺りから雪道多く靴底が滑るようで気持ち悪い。稜線近くから暴風で御舍利山7:20着1 。上空と低い雲の間から剣、北アルプス、乗鞍、御岳が線上に並んでいる。飛騨の低い山々が白山をより大きくして、御舍利からの白山は、たおやかさを秘めている。Hさんが魅せられる訳が解るようです。急いで写真を撮り別山を残して下山開始。暴風で飛ばされないようアヒル歩きで何とか切り抜け、滑る雪道を慎重に下る。オオシロツリと色々な笹の緑とナカマドの紅い実が残る登山道になると緊張から解放される。別山の稜線は雲の中へと消えるが敗退した経ヶ岳、法音寺山、加越国境の山々も遠く見える。まっさらな時をのせて生きたあの感懐もどうしようもなく遠い。何度も振り返り現実の残雪期アタックルートを教わる。避難小屋に戻り温かいコーヒをいただきながら今度来る時は真白くなった時がいいと独り想う。9:20小屋を後にする。急な所もなく明瞭で歩きやすい下山道。1時間30分制服の着用となるが愛慈雨となり、落ちたばかりの鮮やかな黄葉が行く秋を艶やかにし、舞う葉はやがてくる白い季節を喜んでいるかのようでした。12:05市ノ瀬着。天望の湯、福そばに寄り岡崎18:45着となる。